

課題情報シート

テーマ	都野津のまちづくり ～集合住宅計画編～		
大学校	中国職業能力開発大学校附属島根職業能力開発短期大学校		
ホームページ	http://www3.jeed.go.jp/shimane/college/		
電話番号	0855-53-4567（学務援助課）		
訓練課程	専門課程	訓練科	住居環境科
担当指導員	岩本 智美		

開発（制作）年度・期間

2019（令和1）年度 ・ 9 カ月

（内訳）調査：3 カ月、計画・設計：4 カ月、模型及びCGパース作成：2 カ月、

開発（制作）学生数

1 名

（内訳）

習得した技能・技術

本制作では、地域の方へのヒアリングや文献の調査、町の歴史や産業の調査、現状調査、そこから得られた地域ニーズや課題の分析をもとに、多角的な視点に立って計画を行い、建築設計における諸問題に対して総合的に対応できるスキルを習得します。また、提案にあたっては、設計した建築物のイメージや特徴を十分に具現化する建築模型の作成技術及び建築CGパース作成技術、プレゼンテーション技術を習得します。

開発（制作）のポイント

- ・ 地域問題を踏まえ、実在する敷地で計画するため自己的な提案にならないよう、何度も町へ出て調査活動をしました。都野津町の人口推移や過去の状況について市役所や文献等での調査や、繰り返し町歩きをして景観の調査や地域住民へのヒアリングを行いました。また、地元公民館でも情報をいただき、今後のまちづくりについてお話を伺いました。
- ・ 単なる建物の計画・設計で終わらないために、地域活性化に繋がるよう地域住民との関わり方や新たに人を呼び込む方法を考え、誰もが住みやすく移住したくなるようなまちづくりも含めた設計提案になるよう配慮しました。
- ・ 地域からの依頼で始めた活動ではありませんが、都野津町まちづくりの機運向上のきっかけとなることを期待し、学生の提案を広く知ってもらうツールとしての活用も考えたプレゼンテーションボード及び模型の制作を行いました。都野津町内には細い路地が多く、そこを進む面白さは町の魅力でもあるため、模型やCGパースでは敷地内の建築物だけでなく、周辺の路地や家屋を配置して町の魅力が伝わるよう制作しました。

訓練（指導）のポイント

本制作では、調査の目的を共有した後、調査項目や調査方法、まとめ方について学生自身に考えさせることで、自ら地域の課題に気付けるようすすめました。また、これにより設計に入るまでの過程が如何に大変かを体感させることができました。

前提条件として建築計画や設計実習、CG制作において習得したスキルが必要となります。本制作を通じてそれらの基本を復習するとともに、より実務に近い技術（応用力）を身に付けさせることができました。

使用機器

開発において使用した機器等 「機器名（メーカー・型番）」

ArchiCAD®、Piranesi®

参考文献

著者名（発行年）『著書名』出版社.

1) 都野津町誌

2) 江津市誌

3) つのづ今昔

都野津のまちづくり

－集合住宅の計画－

1. はじめに

江津市の西部に位置する都野津町は、石州瓦®生産の中心地として知られている。昔は都野津商人の根拠地としても発展し賑わいがあった。しかし現在の都野津町は空き家、空き地が多い上、少子高齢化も進んでいることから、昔の賑わいはなく静かな町となっている。古い家屋も多く、都野津町の歴史を若い人に引き継いでほしい思いと、現在都野津町で発生している問題点を防ぎ、昔のような賑わいをもう一度取り戻すため、空き地を利用した集合住宅を設計し提案する。

2. 都野津町について

2.1 歴史

地元住民への聞き取り調査及び江津市役所や図書館にて、“瓦産業”“交通機関”“商店”に視点を当て歴史を調査した。瓦産業について図1に示す。昭和40年以降の機械化での省力化、そして平成になると瓦需要が停滞したことで、事業所が減るとともに従業員数も減少している。都野津町には瓦産業に従事する人が多かったため、瓦産業の停滞は都野津町の人口が減少した一因と言える。

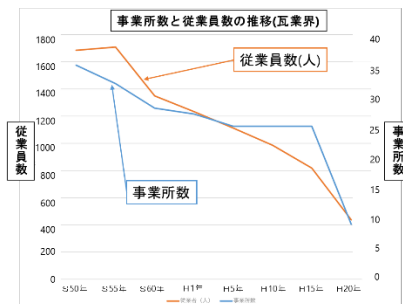
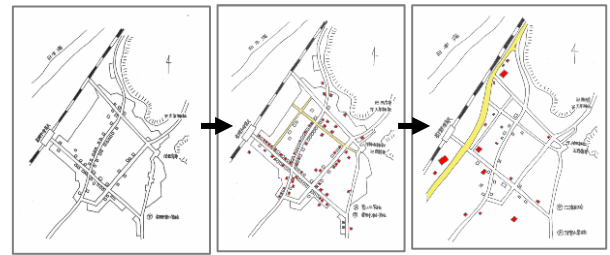


図1 瓦産業の事業所数と従業員数の推移

商店について図2に示すように、昭和30年代には旧9号線と都野津駅前を通りを中心に商店が立ち

並び賑わっていた。しかし現在の9号線ができたことで商業が衰退していった。



昭和13年代 昭和30年代 現在

図2 商業店舗の移り変わり

2.2 現在の街並み

現在の瓦の分布は図3に、色の割合は図4に示す。石州瓦®の発祥の地である都野津町では、赤瓦の景観が今なお残っている。しかし時代とともに赤瓦以外の黒瓦や洋瓦も見られるようになった。そして町の景観を崩している空き家は、調査範囲内だけでも13%の空き家率となっているのが現状である。

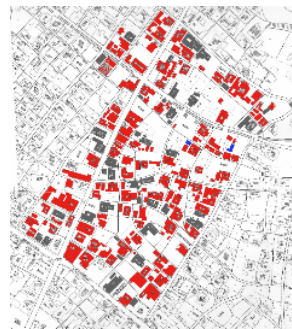


図3 調査範囲の瓦色分布

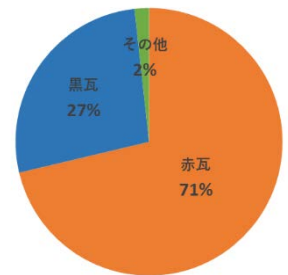


図4 瓦色の割合
(調査件数：115棟)

3. コンセプト

調査をしていく中で、人影がない、人との関わり合いが少ないと強く感じた。もう一度昔のような賑わいを取り戻したいと考え、“町おこし”ができる集合住宅を設計する。町おこしをするためには、今住

んでいる人の理解や協力が必要であり、参加してもらうことが大切だと考える。そしてやる気のある人が住むことでなにか生まれるのではないかと考え、『町を巻き込む』こと、『共有する』ことをコンセプトに設計する。小さな店舗を開業したい、町おこしをしたいと考えている人、また江津市の学校に通う学生を対象とした店舗兼住宅。定期借家制度を利用し、期間を定めることで、退去後、都野津町にある空き家などに転居し実際に店舗を経営、そして学生は市内企業に就職するなど、この集合住宅が町おこしをしたい人や学生を支援するだけでなく、都野津町にも活気が戻り、昔のような賑わいを取り戻すことができるのではないかと考える。

4. 設計図

4.1 配置

タウンハウスの集合住宅とし、図5のように各棟を配置した。両端は学生専用の住宅とする。その間にチャレンジショップをする人の店舗兼住宅を配置。主に1階が店舗、2階が住宅となっている。正面から真ん中にかけて共有スペースとし、敷地にある空き家の一部リフォームし、お客さんの休憩場所及び、入居者の集会所として利用する。空いたスペースはお客さん、入居者の駐車場とする。

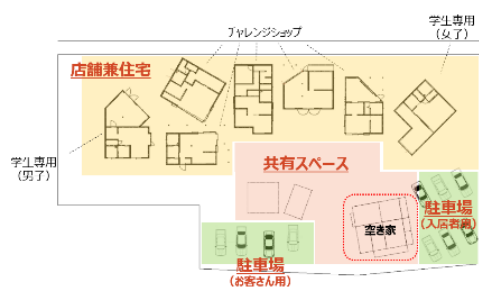


図5 配置計画

4.2 動線

敷地の周りにある路地はそのまま利用し、さらに家の配置を近づけ路地を再現。町の人が行きやすい空間をつくるため、図6のように様々な方向からアクセスすることができ、路地を抜けた先には集いの場となっている。そこでは冬には焚火など自然と人が集まるものを設置する。



図6 動線

4.3 外観

屋根は図7のように統一感を持たせるために、すべて石州瓦®の切妻屋根とし、家同士が近いことで屋根が重なり合い、大きな軒下ができる。三角形ができるように家を配置し、各家を繋ぐようにテント屋根を張る。軒下、テントの下に人が集まることで一体感を表現。外壁は町に溶け込むように杉板を使用する。杉板は日光や雨風をあび、日経つにつれて色が落ちる箇所ができることで変化を楽しむことができる。

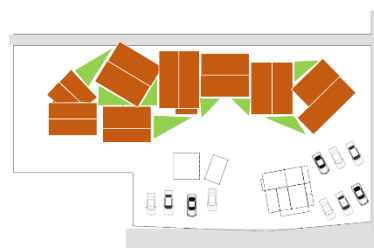


図7 屋根伏図



図8 模型写真

5. おわりに

今回集合住宅を設計するにあたり、地元の方からは、昔は賑やかだった、今は人がいないなどと寂しそうな言葉が飛び交っていた。この素晴らしい歴史ある町を守り、いつまでも活気のある町にしてほしいと今回提案させていただき、この提案が少しでも町おこしに繋がるものになればと願っている。

文献

- 1) 都野津町誌
- 2) 江津市誌
- 3) つのづ今昔